

テーマ	1. 文部科学省が定めている「小学校施設整備指針」、本市教育委員会が定めている「ナゴヤ学びのコンパス」を踏まえた、子ども中心の学びを実現する空間づくりや、探究学習を行うための諸室整備等の考え方について 2. 平成12年の東海豪雨時に平田・浮野全域が浸水した実情を踏まえた、避難所機能が充実した施設整備の考え方について 3. 今後、市が主催予定の地域・保護者・学校との対話の場である懇談会での意見を反映するための設計業務の実施体制及びコミュニケーションの取り方について
-----	---

共創コモンズ 学校施設と学校時間の全てが充実した学びとなる未来の学び舎

吹抜の学校図書館を中心に、その周りに学習・交流空間を配置します。専門性が高い/マルチに使える、広い/狭い、ワイワイする/静かにする、緑や空が見えるなど、**多様な居場所が吹抜で緩やかにつながり**、学校全体を子どもたちの主体的・協働的な学びを支えるコモンズとして計画します。※学び＝学習・交流・遊び・創造等

1. 子ども中心の学びや探究学習を実現する空間づくり・諸室整備

緩やかなつながりが興味を育み、探究を深めるラーニングコアと専門コモンズ

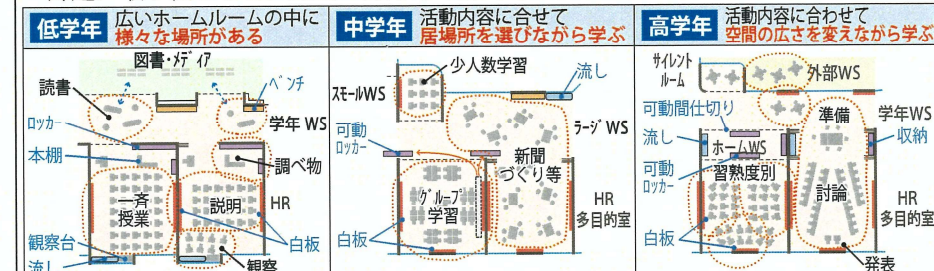
- メディア空間を学校の中心(2階)に設置し、学習ルームと実験ラボを一体整備した**ラーニングコア**を計画します。3つの場所を行き来しながら、調べ学習や発表、実験実習を行う**探究的な学びの拠点**とし、意欲を高める内装・展示を演出します。
- 教科のゾーンは、安全で専門的な**探究ルーム**(特別教室)、展示や作業ができる**マルチルーム**、**屋外活動テラス**の3つの場所が連携した**専門コモンズ**として整備します。児童の興味関心に基づき、様々な探究方法を自ら考え、実践できる環境を設えます。
- 各専門コモンズは**ギャラリー階段**でつながり、**立体的なラーニングコア**となります。
- マルチルームは公園の緑に面した快適な空間とし、ホームルーム(HR)から離れて一人で過ごしたり、学級や学年を超えた交流もできる**サードプレイス**になります。



ラーニングコアが学校全体を緩やかにつなぐ『共創コモンズ』子どもたちは自分で居場所を選び、興味のある勉強や遊びを自ら決めて取り組む

可変性が高く、多様なスタイルの学びを展開できる学年コモンズ

- 各学年のスペースは**他学年の通り抜けがない動線計画**とし、落ち着きがあり、学習活動を展開しやすい**学年コモンズ**を整備します。学年によってコモンズの設えを変え、成長段階に応じた協働性と個性のある学習空間を整備します。
- 可動ロッカーにより、HR内に**複数の板書・投影壁面(多正面の教室)**を設け、一斉授業のほか、グループ学習や習熟度別学習など、個別の学習・指導に対応します。
- ワークスペース(WS)は一樣な広い空間ではなく、**大小のスペースや可変性のある間仕切り**により、柔軟な学習活動を促します。**板書・掲示のできる壁面や腰を下せる床仕上げや小上がり**を計画的に設け、互いに教え合う、リラックスした姿勢で課題に取り組むなど、児童の自発的で創造的な学びを促します。



ワークスペースの計画：学年が上がるごとに『空間の可変性』が高まり、学びに個性や創造性生まれる

地域や学校外とのつながりの中で学ぶ共創空間づくり

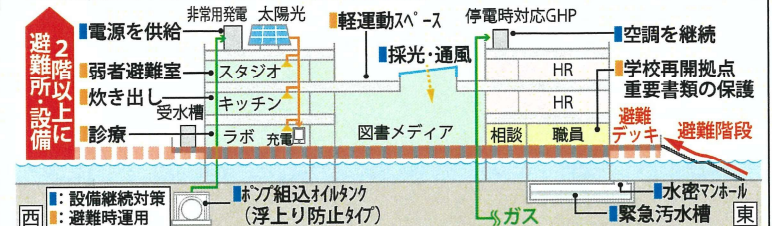
- 現在と同じ位置に正門を設け、浮野校区の児童を迎えます。昇降口や来客玄関の前に**交流ひろば**を整備し、公園や遊歩道と自然につながる地域に開かれた学校とします。
- 昇降口の正面に**共創ホール**を設け、図工や理科など専門教科の活動や学年集会・合唱練習のほか、**企業や大学と連携した活動のスペース**とします。
- トワイライト諸室を共創ホールに隣接して配置します。図書館にも移動しやすく、**放課後や長期休暇中も学校全体で充実した体験ができる**施設構成とします。



2. 避難所機能(特に水害時)が充実した施設整備

2階以上に支援・対策機能を集約し、避難所スペースを最大化

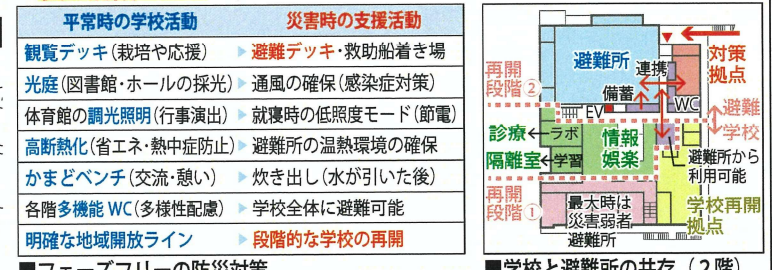
- 体育館を2階**に設置し、直接2階に上がる**避難階段**を整備します。
- 避難者支援室・特別活動室を2階体育館に隣接**し、支援活動の拠点とします。**職員室も2階**とし、重要書類やデータを守るとともに、**相談室や職員WCを避難所側から利用しやすい位置**に計画します。
- 水やガスがあり、独立性の高い**特別教室を2階以上**とし、**避難者用WCや備蓄倉庫も各階**に設け、学校全体での避難者受け入れや支援活動の実施、**障がい者や感染症罹患者の分散避難**に対応します。
- 体育館の**屋根・外壁・床の断熱性**を高め、**通風**を確保します。**停電時対応型ガス空調**を整備し、空調を確保します。
- 逆流防止弁付き排水管や**緊急汚水槽**によりトイレ機能を確保します。



避難所機能の確保：2階以上に防災機能・重要設備・学校運営機能を集約

フェーズフリーの視点による安全性・防災性・居住性の確保

- 日常の延長にある備えを行うことで、**教育の質を高めながら災害に強い施設づくり**を行い、児童・地域の防災対応力を高めます。



フェーズフリーの防災対策：学校と避難所の共存(2階)

3. 多様な意見を反映するコミュニケーション手法と実施体制

- 学校実績の多い設計チームに加え、**ワークショップ経験者の支援**により、設計・対話ともに専門性の高い体制で取り組みます。
- 懇談会の内容・目的に合せて**図面・模型・CG(VR)・事例写真等**を駆使し、設計イメージを分かりやすく説明します。
- 施設計画に関する第3・4回懇談会は、**ワールドカフェ方式**を採用し、自由で多様な意見を出しやすい説明・対話を行います。
- 教育空間の検討は、2校の**代表教職員との検討分科会**を実施します。弊社実績などを紹介しながら、新しい時代の教育空間を提案します。
- 意見の集約に留まらず、反映した計画案をHPやSNS等で懇談会メンバーや地域・学校に**フィードバックし、参画意識を醸成**します。
- 2校合同児童ワークショップ**を行い、図書館や屋外空間等の立案・共創を通して、交流を推進します。

時期・内容	意見反映のための取り組み
事前準備	視察が行われた上 志段味小を見学 し、児童やPTAの意見の意図を理解。 児童ワークショップや教員アンケートを踏まえた 要望案を事前に確認 。
第2回/R7.11	要望を『 願い 』と『 条件 』に整理。プロボ案も踏まえ『 コンセプト 』を提示。 弊社設計事例や参考事例の写真を提示し、 整備イメージをすり合わせ 。
第3回/R8.2	校庭面積や正門位置等を示した 複数案を図面・模型 で提示し、意見集約・方針決定。 平面ゾーニングも示し、 防災や地域開放について意見交換。プラン検討に反映 。
第4回/R8.5	検討分科会により、学校との調整を経た平面プランを提示。 安全対策、防災対策、地域開放 などについて意見交換。実施設計に反映。
第5回/R8.7	仮設工事の児童動線や仮設利用中の外部スペースの確保について、 必要な助言 を行う。 ※仮設校舎設計は業務外
第6回/R8.12	設計の進捗状況や仮設校舎の状況について報告。
第7回/R9.2	設計の結果を CG・パースや模型等 で報告。 仮設・工程計画など、 安全対策について丁寧に説明 。
懇談会ごとの取り組み	※時期・内容は市HPを参照しています